

平成 26 年度改訂

宮城県立迫支援学校 各教科ごとと指導内容表



指導内容表は本校の教育課程の中で、自立や社会参加を目指して指導されるべき具体的な指導内容を各教科ごとにまとめたものです。

1. 指導内容表作成の意義	1
2. 指導内容表の作成・改訂の手順	4
3. 各教科の構成（観点ごと一覧）	7
4. 各教科の内容（学習指導要領で規定された内容）	8
5. 各教科の具体的指導内容	
①生活科	16
②社会科	28
③国語科	35
④算数科，数学科	42
⑤理科	49
⑥音楽科	54
⑦図工科，美術科	61
⑧体育科，保健体育科	68
⑨職業家庭科，職業科，家庭科	75
⑩外国語科	81
⑪情報科	84

1. 指導内容表作成の意義

1) 知的障害者を対象とした特別支援学校の教育内容の特徴

- ① 知的障害者を対象とする特別支援学校の各教科の内容
- ② 特別支援学校独自の領域である自立活動

※他の特別活動、道徳、総合的な学習の時間は通常の学校とほぼ同様である。

2) 知的障害者を対象とした特別支援学校の各教科

○昭和37年、養護学校小学部・中学部学習指導要領精神薄弱教育編が制定

教育の内容を教科ごとに示すかわりに2つの条件が付与された。

- ①各教科等を合わせて指導することができる。
- ②知的障害の教科は生活のための内容であり、他校種の教科とは違う独自の内容であることを明言化された。

資料 当時の学習指導要領からの抜粋

精神薄弱者を教育する養護学校（以下「養護学校」という。）の教育課程を編成するにあたっては、上掲の規定によらなければならないことはもちろんであるが、しかし、精神薄弱者は、肢体不自由者や病弱者とは異なり、次に示すような学習指導上の特性をもっているため、規則第73条の10第2項には「精神薄弱者を教育する養護学校（分校を含む。…）の小学部及び中学部の各学年においては、小学部にあつては第73条の7第1項に規定する教科、中学部にあつては第73条の8第2項に規定する教科の全部又は一部について、これらをあわせて授業を行うことができる。」という特別の規定が設けられている。

各養護学校において、小学部および中学部の教育課程を編成するにあたっては、教育基本法、学校教育法および同法施行規則、養護学校小学部・中学部学習指導要領精神薄弱教育編、教育委員会規則等に示すところに従い、地域や学校の実態を考慮し、児童または生徒の知能その他の精神的特性、発達段階ならびに経験等に即応するとともに、下記の事項に関しても、特に留意しなければならない。

ア 精神薄弱教育の究極的な目標は、児童・生徒を社会生活に適應させ、自立的な生活を営むようにするところにあること。

イ 精神薄弱教育において必要とする各教科、道徳、特別教育活動および学校行事等の内容は、児童・生徒が自らの力で身の生活の処理し、進んで社会生活に参加していく上に必要な最少限の具体的な経験に限られ、また、それは、児童・生徒の理解力とその発達にともなう生活領域の拡大に即応して、段階的に組織・配列しなければならないものであること。

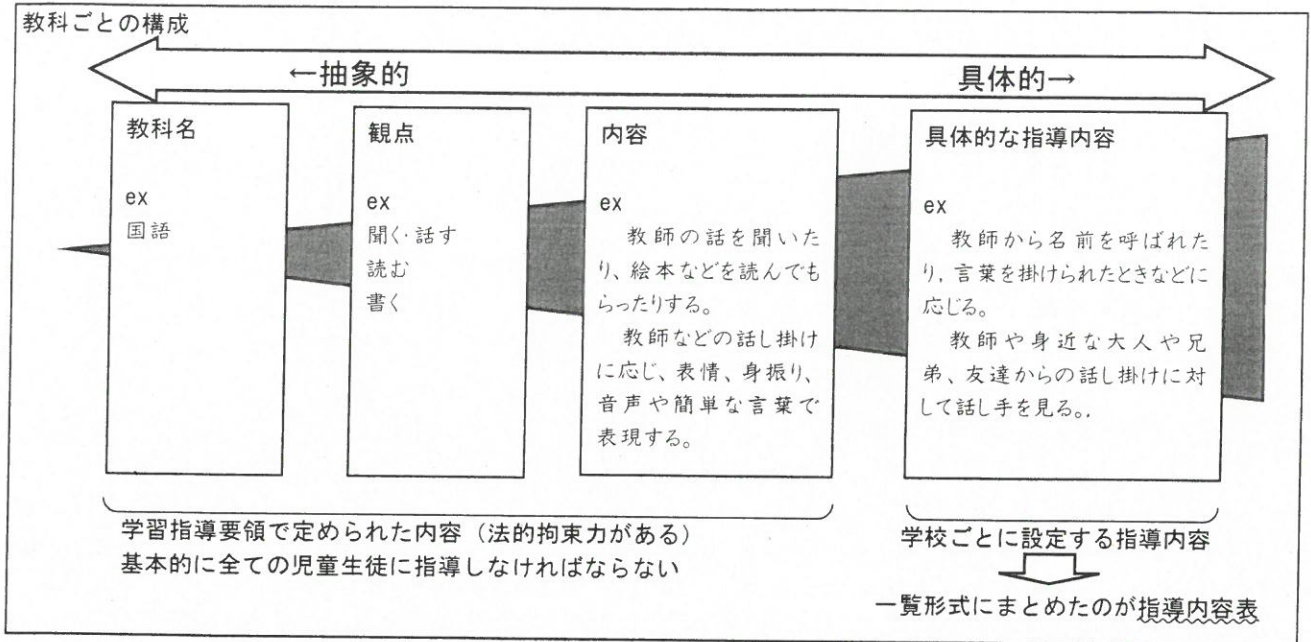
特に、各教科の内容については、児童・生徒の精神の構造が未分化な状態にあればあるほど統合され、しかも、それは、できるだけ身近な生活の場面における具体的な学習活動を通して身につけさせるようくふうされなければならないものであること。

◎知的障害者を対象とした特別支援学校の各教科の内容は通常の学校の教科とは異なり、学問の体系で易から難の系統に沿ったものではなく、生活に必要な内容を身近から疎遠の系統に沿って分析し、教科名でカテゴライズされたものである。従ってその内容は独自であり、通常の学校の各教科の内容を簡易にしたものではない。

3) 知的障害者を対象とした特別支援学校の各教科の構成

小学部	3段階	国語科	算数科	生活科	音楽科	体育科	図画工作科					
中学部	1段階	国語科	数学科	社会科	理科	音楽科	保健体育科	美術科	職業家庭科	外国語科		
高等部	2段階	国語科	数学科	社会科	理科	音楽科	保健体育科	美術科	職業科	家庭科	外国語科	情報科

学習指導要領に示された各教科の内容は中核的な内容にとどめられている。具体的な指導内容については各学校において設定することとされている。

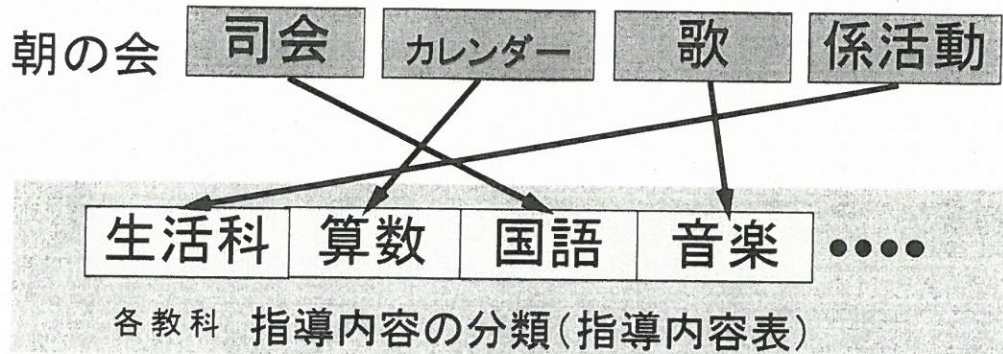


4) 各教科等を合わせた指導

(1) 教育課程の2重構造

- ① 授業として実施される指導の形態（教科別の指導，各教科等を合わせた指導）
- ② 授業に含まれる指導内容を分類するための各教科

指導の形態(例:日常生活の指導)



○実際の授業では一連の活動の中に各教科の内容が含まれている。

(2) 各教科等を合わせた指導の特徴

◎ 知的障害の特性に応じた指導

教科別の指導は断片化された生活の一部を取り出して指導するため、生活への定着や般化が難しい。

そこで生活そのものを一連の活動として指導するために、各教科等を合わせた指導が行われるようになった。

(3) 各教科等を合わせた指導の計画を作成するにあたって

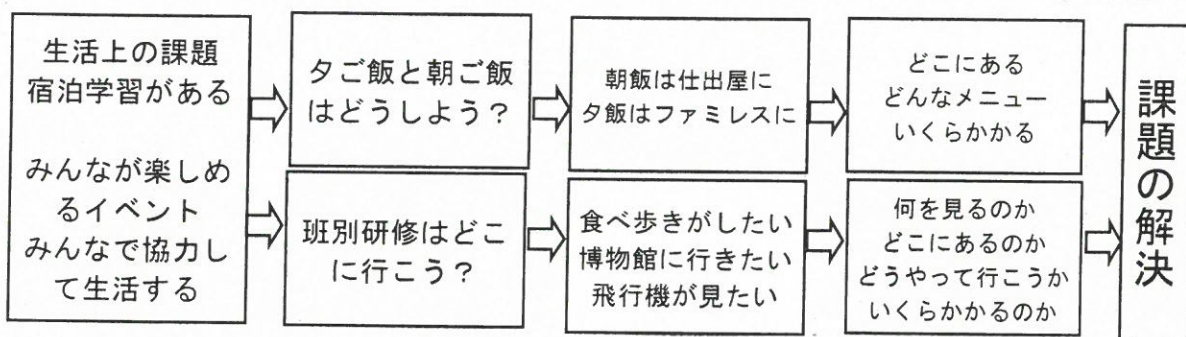
知的障害がある児童生徒の教育的対応の基本から（学習指導要領解説からの抜粋）

- 生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際的な状況下で指導する。
- 生活の課題に沿った多様な生活経験を通して、日々の生活の質が高まるように指導する。

例：生活単元学習の場合

単元とは、一般に次のようなまとまりのある一連の活動のことをいいます。まず、はじめに「〇〇バザーがしたい」等の子どもの願い（生活上の課題）があります。次に、その願いを実現するための手だてや必要な準備を考える計画の立案、その計画にそった活動等（課題解決のための目的的活動）による当初の願いの実現があります。最後に、活動を振り返ります。活動したことを文章や絵などで表現します。最近では、ビデオ・デジタルカメラの映像が活用されています。

(<https://www.nise.go.jp/portal/elearn/seikatutangen.html>)



○課題の解決に向けた学習活動の設定

→ 各教科の内容から学習活動を設定しない。

- ◎各教科等を合わせた指導の計画では、単元の目的の達成に向けた学習活動の設定が優先されるので、各教科の内容はそれらを分析する（後付けする）程度の関連でしかない。

(4) 領域・教科を合わせた指導の課題

資料 各教科等を合わせた指導への批判

「『身近な生活場面における具体的な学習活動を通じて経験を身につける』方法として、ほとんどの精薄児特殊学級や養護学校で採用しているところの”生活単元学習”とか、総合単元学習、経験単元学習、作業単元学習等々の学習様式が、はたして、主張されている理想に適合しているであろうか。理想を実現しているであろうか。はなはだ残念ながら、実際は、そんな教育理想は教師の頭の中だけに描かれているだけであって、子どもたちは、ゴタゴタした体験を単にくりかえしているにすぎないというような場面もはなはだ多いのである。”作業を通じて、生活の知えを”と希望しながら、実は徒弟制度の労働強制となんらちがわくない方法がとられたり、あるいは子どもは目的意識もはっきりせず、あれもこれもと這いまわらせられたり、そんなゴツタのような”具体的総合的体験”を、くる日もくる日も、ことしも来年もくりかえして、という心配も、あながち不当だとはいえないようである。」（小宮山倭 1967年 青島養護学校 校長）

- ① 目的意識と学習活動との関連が曖昧に理解（這いまわり性の問題）
- ② 指導内容の不明瞭とそれに伴う系統性の曖昧さ（混沌性の問題）

5) 指導内容表作成の意義

- ①教科の内容が、通常の学校とは違う独自の内容であるため、明確にしておく必要があるから。
- ②学習指導要領において各学校において具体的な指導内容を設定する必要があるから。
- ③知的障害の特性に応じた各教科等を合わせた指導において、指導内容や系統性が曖昧になりがちだから。

➡ **教育課程を編成する根拠の一つとして作成し、全校で活用していく必要性**

2. 指導内容表の作成・改訂の手順

1) 組織

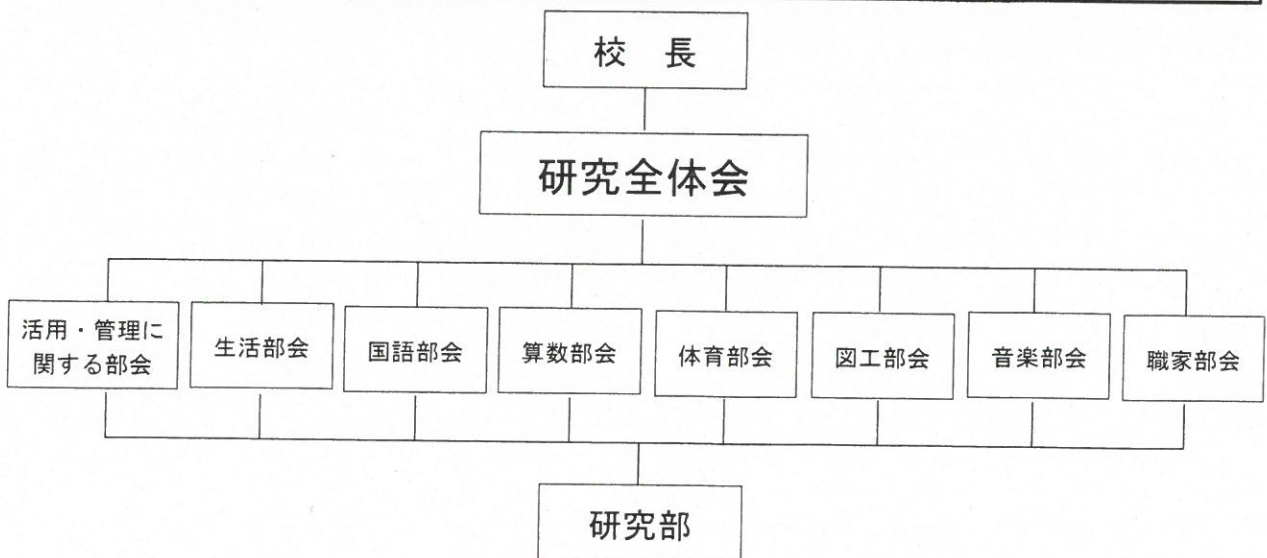
(1) 平成26, 27年

2カ年にわたる共同研究の中で指導内容表の作成を実施する。

教科部会を組織し、指導内容表の試案を作成する。また活用・管理に関する部会では指導内容表の活用の仕方、管理、運営の在り方などを検討していく。

教科部会

	部会名	小学部教科	中学部教科	高等部教科	計
1	生活部会	生活	社会, 理科	社会, 理科	5教科
2	職家部会		職家	職業, 家庭, 情報	4教科
3	国語部会	国語	国語, 外国語	国語, 外国語	5教科
4	算数部会	算数	数学	数学	3教科
5	体育部会	体育	保体	保体	3教科
6	図工部会	図工	美術	美術	3教科
7	音楽部会	音楽	音楽	音楽	3教科
	計	6教科	9教科	11教科	26教科



校長への諮問機関として研究全体会を位置づけ、各部会から研究全体会へ提案できるようにする。各部会、研究全体会等を一元的に統括、運営していくために研究部を位置づける。

2) 指導内容表作成の方法

(1) 特別支援学校学習指導要領解説(幼稚部, 小学部, 中学部, 高等部)からの抜粋
 参考資料は全国特別支援学校知的障害教育校長会などの資料なども考えられるが,
 指導内容の精選, 根拠の明確化という立場から考えると, 学習指導要領解説からの抜
 粋が適していると考えた。

例 国語科 1段階 (4) いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ。
 以下解説からの抜粋
 ② 1段階の(4)の「いろいろな筆記用具」とは、クレヨン、チョーク、筆、はけ、鉛筆、ボールペン、水性・油性ペンなどを指し、児童がいろいろな筆記用具に触れ、なぐり書きであっても書くことを十分楽しめるような指導内容を設定することが必要である。また、書くときの筆記用具の持ち方や正しい姿勢について、初期の段階や日常生活の中のあらゆる機会に、継続的に指導を行うことが大切である。

下線部が指導内容となる。これを意味が変化しないように文末を整理したり, 長大になるときは, 内容を分けたりして一覧表に加えていく。

文末は内容の表現にならない, 児童生徒主体の文体とする。

- ・クレヨン、チョーク、筆、はけ、鉛筆、ボールペン、水性・油性ペンなどに触れ、なぐり書きなどを楽しむ。
- ・書くときの筆記用具の持ち方や正しい姿勢をとることができる。

これら抜粋した内容を書式に転記する。

書式例
国語科

観点 段階	聞く・話す				読む		書く	
	内容	指導内容	内容	指導内容	内容	指導内容	内容	指導内容
1 段階	(1) 教師の話や絵本などを読んでもらう。	○教師から名前を呼ばれたり、言葉を掛けられたときなどに応じる。 ○写真や絵画などの中のもの名前などを読んでもらう。 ○絵本のほか、紙芝居やまんがなどを読んでもらう。	(2) 教師などの話し掛けに応じて、表情、身ぶり、音声や簡単な言葉で表現する。	○教師や身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに対して話し手を見る。 ○教師や身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに対して音声で模倣する。 ○教師や身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに対して返事をする。 ○教師や身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに対して簡単な言葉で表現する。	(3) 教師と一緒に絵本などを楽しむ。	○絵本や紙芝居、テレビなどを教師と一緒に見たり、読んでもらったりしながら楽しむ。 ○身近な事物や動物などに興味・関心を広げる。 ○好きな絵本を自分で探して読んでもらう。	(4) いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ。	○クレヨン、チョーク、筆、はけ、鉛筆、ボールペン、水性・油性ペンなどでなぐり書きであっても書くことを十分楽しむ。 ○書くときの筆記用具の持ち方や正しい姿勢をとることができる。
2 段階								

3) 指導内容表作成の日程

平成26年度(1年次)	
月	内 容
5	研究全体会 8日 (今年度研究計画の確認)
6	各部会 17日 (顔合わせ, 指導内容表の作成方法と様式について)
7	各部会 17日 (作成分担, 活用案と管理案の作成)
8	各部会 21日 (作成, 活用・管理案の作成)
9	各部会 11日 (作成, 活用・管理案の作成)
10	各部会 24日 (集約, 点検, 活用・管理案の作成) アンケートの実施
11	各部会 20日 (点検, 提出, 活用・管理案資料)
12	研究全体会 16日 (中間評価, 今後の方針の確認)
1	各部会 19日 (活用・管理案について)
2	研究全体会 20日 (指導内容表案の配布, 1年次研究のまとめ)
3	研究全体会 6日 (2年次研究の計画)

3. 各教科の構成（観点ごと一覧）

段階 教科	小学部相当			中学部相当	高等部相当	
	1段階	2段階	3段階	4段階	5段階	6段階
生活科	基本的生活習慣 健康・安全 遊び 交際 役割 手伝い・仕事 きまり 日課・予定 金銭 自然 社会の仕組み 公共施設					
国語科	聞く・話す 読む 書く					
社会科				集団生活と役割ときまり 公共施設 社会の出来事 地域の様子や社会の変化 外国の様子	集団生活と役割・責任 きまり 社会的現象 我が国の地理・歴史	
算数科 数学科	数量の基礎 量と測定 図形・数量関係	数と計算 実務				
理科				人体 生物 事物や機械 自然		
音楽科	音楽遊び	鑑賞 身体表現 器楽 歌唱				
図工科 美術科	造形遊び	表現 材料・用具 鑑賞				
体育科	基本的な運動 運動遊び	基本的な運動 いろいろな運動				
保健体育科	きまり	きまり・安全	きまり	保健		
職業家庭科				働くことの意義 道具・機械等の取り扱いや安全・衛生 役割 職業に関する基礎的な知識 産業現場等における実習		
職業科				職業に関する知識		
家庭科				余暇 情報 家庭の役割	健康管理・余暇 機械・情報機器	
				家庭に関する基礎的な事項 消費と余暇 道具や器具等の取り扱いや安全・衛生 家庭に関する事項 保育・家庭看護		
外国語科				英語とその表現への興味や関心 英語での表現	会話 読む・書く 語や句、文の意味	
情報科				情報やコンピュータ等の情報機器や役割 機器の操作 ソフトウェアの操作と活用 通信 情報の取り扱い		

4. 各教科の内容（学習指導要領より抜粋）

小学部各教科の内容
生活

	1段階	2段階	3段階
(1) 基本的 生活習慣	日常生活に必要な身辺処理を求めたり、教師と一緒に رفتりする。	教師の援助を受けながら日常生活に必要な身辺処理をする。	日常生活に必要な身辺処理を自分でする。
(2) 健康・ 安全	教師と一緒に健康で安全な生活をする。	教師の援助を受けながら健康で安全な生活をする。	健康や身体の変化に関心をもち、健康で安全な生活をするように心掛ける。
(3) 遊び	教師や友達と同じ場所で遊ぶ。	教師や友達と簡単なきまりのある遊びをする。	友達とかかわりをもち、きまりを守って仲良く遊ぶ。
(4) 交際	教師と一緒に身近な人に簡単なあいさつをする。	教師の援助を受けながら身近な人にあいさつや話をするなどのかかわりをもつ。	身近な人と自分とのかかわりが分かり、簡単な応対などをする。
(5) 役割	教師と一緒に集団活動に参加する。	集団活動に参加し、簡単な係活動をする。	進んで集団生活に参加し、簡単な役割を果たす。
(6) 手伝い・ 仕事	教師と一緒に簡単な手伝いや仕事をする。	教師の援助を受けながら簡単な手伝いや仕事をする。	日常生活で簡単な手伝いや仕事を進んでする。
(7) きまり	教師と一緒に日常生活の簡単なきまりに従って行動する。	日常生活に必要な簡単なきまりやマナーに気付き、それらを守って行動する。	日常生活に必要な簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動する。
(8) 日課・ 予定	教師と一緒に日課に沿って行動する。	教師の援助を受けながら日課に沿って行動する。	日常生活でのおよその予定が分かり、見通しをもって行動する。
(9) 金銭	教師と一緒に簡単な買い物をする。	決まった額の買い物をして、金銭の必要なことが分かる。	簡単な買い物をして、金銭の取扱いに慣れる。
(10) 自然	身近な自然の中で、教師と一緒に遊んだり、自然や生き物に興味や関心をもちたりする。	身近な自然の中で遊んだり、動植物を育てたりして自然や生き物への興味や関心を深める。	身近な自然の事物・現象に興味や関心を深め、その特徴や変化の様子を知る。
(11) 社会 の仕組み	家族や家の近所などの様子に興味や関心をもち。	家族の役割や身近な地域の様子に興味や関心をもち、自分と家庭や社会とのかかわりに気付く。	家庭や社会の様子に興味や関心を深め、その働きを知る。
(12) 公共 施設	身近な公共施設や公共物などを教師と一緒に利用する。	教師の援助を受けながら身近な公共施設や公共物などを利用する。	身近な公共施設や公共物などを利用し、その働きを知る。

国語

	1段階	2段階	3段階
(1)(2) 聞く・話す	教師の話の聞いたり、絵本などを読んでもらったりする。 教師などの話し掛けに応じ、表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現する。	教師や友達などの話し言葉に慣れ、簡単な説明や話し掛けが分かる。 見聞きしたことなどを簡単な言葉で話す。	身近な人の話を聞いて、内容のあらましが分かる。 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどを教師や友達と話す。
(3) 読む	教師と一緒に絵本などを楽しむ。	文字などに関心を持ち、読もうとする。	簡単な語句や短い文などを正しく読む。
(4) 書く	いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ。	文字を書くことに興味をもつ。	簡単な語句や短い文を平仮名などで書く。

算数

	1段階	2段階	3段階
(1) 数量の基礎、数と計算	具体物があることが分かり、見分けたり、分類したりする。 個別化 類別 分類・整理する 対応	身近にある具体物を数える。 数を数える 一対一対応をする 分類する	初歩的な数の概念を理解し、簡単な計算をする。 数唱 計数 記数 大小比較 順序数 合成・分解 加減算、乗法・除法
(2) 量と測定	身近にあるものの大小や多少などに関心をもつ。	身近にあるものの長さやかさなどを比較する。	身近にあるものの重さや広さなどが分かり、比較する。
(3) 図形・数量関係	身近にあるものの形の違いに気付く。	基本的な図形や簡単な図表に関心をもつ。	基本的な図形が分かり、その図形を描いたり、簡単な図表を作ったりする。
(4) 実務(時計・暦)		一日の時の移り変わりに気付く。 きのう、きょう、あした	時計や暦に関心をもつ。 時計の仕組み、長針と短針の意味

音楽

	1段階	2段階	3段階
音楽遊び (1) (2)	音楽が流れている中で体を動かして楽しむ。 音の出るおもちゃで遊んだり、扱いやすい打楽器などでいろいろな音を鳴らしたりして楽しむ。		

(1) 鑑賞		好きな音や音楽を聴いて楽しむ。	身近な人の歌や演奏などを聴き、いろいろな音楽に関心をもつ。
(2) 身体表現		友達や教師とともに簡単なリズムの特徴を感じ取って身体を動かす。	音楽に合わせて簡単な身体表現をする。
(3) 器楽		打楽器などを使ってリズム遊びや簡単な合奏をする。	旋律楽器に親しみ、簡単な楽譜を見ながらリズム合奏をする。
(4) 歌唱		好きな歌ややさしい旋律の一部分を楽しく歌う。	やさしい歌を伴奏に合わせてながら、教師や友達などと一緒に歌ったり、一人で歌ったりする。

図画工作

	1 段階	2 段階	3 段階
造形遊び			
(1)	かいたり，つくったり，飾ったりすることに関心をもつ。		
(2)	土，木，紙などの身近な材料をもとに造形遊びをする。		
(1)表現		見たことや感じたことを絵にかいたり，つくったり，それを飾ったりする。	見たこと，感じたことや想像したことを，工夫して絵にかいたり，つくったり，それを飾ったり，使ったりする。
(2)材料・用具		粘土，クレヨン，はさみ，のりなどの身近な材料や用具を親しみながら使う。	いろいろな材料や用具を工夫しながら，目的に合わせて使う。
(3)鑑賞			友達と作品を見せ合ったり，造形品などの形や色，表し方の面白さなどに気付いたりする。

体育

	1 段階	2 段階	3 段階
(1)基本の運動	教師と一緒に，楽しく手足を動かしたり，歩く，走るなどの基本的な運動をしたりする。	歩く，走る，跳ぶなどの基本的な運動に慣れる。	歩く，走る，跳ぶなどの基本的な運動を姿勢や動きを変えるなどしていろいろな方法で行う。
(2)運動遊び・いろいろな運動	いろいろな器械・器具・用具を使った遊び，表現遊び，水遊びなどを楽しく行う。	いろいろな器械・器具・用具を使った運動，表現運動，水の中での運動などに親しむ。	いろいろな器械・器具・用具を使った運動，表現運動，水の中での運動などをする。
(3)きまり・安全	簡単な合図や指示に従って，楽しく運動をする。	簡単なきまりを守り，友達とともに安全に運動をする。	いろいろなきまりを守り，友達と協力して安全に運動をする。

中学部・高等部の各教科の内容

国語

	中学部	高等部	
		1段階	2段階
(1)聞く	話のおよその内容を聞き取る。	話の内容の要点を落とさないように聞き取る。	話し手の意図や気持ちを考えながら、話の内容を適切に聞き取る。
(2)話す	見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などを相手に分かるように話す。	目的や場に応じて要点を落とさないように話す。	自分の立場や意図をはっきりさせながら、相手や目的、場に応じて適切に話す。
(3)読む	簡単な語句、文及び文章などを正しく読む。	いろいろな語句、文及び文章を正しく読み、内容を読み取る。 小説、詩、俳句、雑誌 国語辞典 諸案内、工作や料理の作り方、広告文、標識、看板	目的や意図などに応じて文章の概要や要点などを適切に読み取る。 小説、詩、俳句、雑誌 説明書、領収書、広報
(4)書く	簡単な手紙や日記などの内容を順序立てて書く。 はがき、年賀状、礼状 社会見学の記録、行事の案内状・招待状 ワープロ・コンピュータの操作、書初め	手紙や日記などを目的に応じて正しく書く。 はがき、年賀状、礼状 学級新聞の刊行	相手や目的に応じていろいろな文章を適切に書く。 履歴書、諸届、申し込み書、ワープロ・コンピュータの活用

社会

	中学部	高等部	
		1段階	2段階
(1)集団生活ときまり	集団生活の中での役割を理解し、自分の意見を述べたり、相手の立場を考えたりして、互いに協力し合う。	相手や自分の立場を理解し、互いに協力して役割や責任を果たす。	個人と社会の関係が分かり、社会の一員としての自覚をもつ。
(2)社会生活ときまり	社会生活に必要ないろいろな決まりがあることを知り、それらを守る。	社会や国にはいろいろな決まりがあることを知り、それらを適切に守る。	社会の慣習、生活に関係の深い法や制度を知り、必要に応じて生活に生かす。
(3)公共施設	日常生活に関係の深い公共施設や公共物などの働きが分かり、それらを利用する。	生活に関係の深い公共施設や公共物などの働きを理解し、それらを適切に利用する。	公共施設や公共物などの働きについての理解を深め、それらを適切に利用する。
(4)社会のできごと	日常生活で経験する社会の出来事や情報メディアなどに興味や関心を持ち、生産、消費などの経済活動に関する初歩的な事柄を理解する。	政治、経済、文化などの社会的事象や情報メディアなどに興味や関心を持ち、生産、消費などの経済活動に関する基本的な事柄を理解する。	政治、経済、文化などの社会的事象や情報メディアなどに興味や関心を深め、生産、消費などの経済活動に関する事柄を理解する。
(5)地域の様子や社会の変化	自分が住む地域を中心に、我が国のいろいろな地域の様子や社会の移り変わりに関心をもつ。	我が国のいろいろな地域の自然や生活の様子を理解し、社会の変化や伝統に関心をもつ。	地図や各種の資料などを活用し、我が国のいろいろな地域の自然や生活の様子、社会の変化や伝統を知る。
(6)外国の様子	外国の様子や世界の出来事などに興味や関心をもつ。	外国の自然や人々の生活の様子、世界の出来事に関心をもつ。	各種の資料を活用し、外国の自然や人々の生活の様子、世界の出来事について知る。

数学

	中学部	高等部	
		1段階	2段階
(1)数と計算	日常生活における初歩的な数量の処理や計算をする。	日常生活に必要な数量の処理や計算をする。	生活に必要な数量の処理や計算をする。
(2)量と測定	長さ・重さなどの単位が分かり、測定する。	長さ・重さなどの単位の関係が分かり、測定する。	長さ・重さ・量などの測定方法を理解し、活用する。
(3)図形・数量関係	図形の特徴や図表の内容を理解し、作成する。	図形を正しく作図したり、表やグラフを工夫して作ったりする。	様々な図形、表やグラフを理解し、工夫して使う。
(4)実務(時計・暦)	金銭や時計・暦などの使い方に慣れる。	金銭や時計・暦などの正しい使い方が分かる。	生活に必要な金銭や時計・暦などを工夫して使う。

理科

	中学部	高等部	
		1段階	2段階
(1)人体	人の体の主なつくりや働きに関心をもつ。	人の体の主なつくりや働きを理解する。	人の体の主なつくりや働きについての理解を深めるとともに、人の成長や環境とのかかわりについて関心をもつ。
(2)生物	身近な生物の特徴、その成長及び活動の様子に関心をもつ。	生物の特徴、その成長や活動の様子について理解し、生命の大切なことを知る。	生物とそれを取り巻く自然環境についての理解を深め、生命の大切なことを知る。
(3)事物や機械	日常生活に関係の深い事物や機械・器具の仕組みと扱いについての初歩的な知識をもつ。	生活に関係のある物質の性質や機械・器具の構造及び働きについて理解し、適切に取り扱う。	様々な物質の性質や機械・器具の種類、構造及び働きについて理解し、適切に取り扱う。
(4)自然	自然の事物・現象についての興味を広げ、日常生活との関係を知る。	自然の事物・現象についての初歩的な理解を図るとともに、自然と生活との関係を理解する。	自然の事物・現象についての理解を図るとともに、自然と生活との関係について理解を深める。

音楽

	中学部	高等部	
		1段階	2段階
(1)鑑賞	いろいろな音楽を楽器の音色などに関心をもって聴く。	いろいろな音楽をその美しさなどを感じ取りながら鑑賞する。	いろいろな音楽をその美しさなどを味わいながら鑑賞する。
(2)身体表現	音楽を聴いて感じたことを動作で表現したり、リズムに合わせて身体表現をしたりする。	音楽を聴いて曲の特徴などを感じ取り、創造的に身体の動きで表現したりする。	音楽を聴いて感じたイメージを創造的に身体表現する。
(3)器楽	打楽器や旋律楽器などを使って、自由に演奏したり、合奏や独奏をしたりする。	打楽器や旋律楽器などに親しみ、その演奏の仕方に慣れ、気持ちを込めて合奏や独奏をする。	打楽器や旋律楽器などの演奏の仕方に慣れ、楽器の特色や音色を生かしながら合奏や独奏をする。
(4)歌唱	歌詞やリズムなどに気を付けて、独唱、斉唱、簡単な輪唱などをする。	歌詞の内容を感じ取って、独唱、斉唱、簡単な合唱などをする。	独唱、斉唱、二部合唱、オペレッタなどによる表現に慣れ、歌詞の内容や曲想などを味わいながら歌う。

美術

	中学部	高等部	
		1段階	2段階
(1)表現	経験や想像をもとに、計画を立てて、絵をかいたり、作品をつくったり、それらを飾ったりする。	経験や想像をもとに創造的に絵をかいたり、作品をつくったり、それらを飾ったりする。	経験や想像をもとに、様々な技法などを用いて、創造的に絵をかいたり、作品をつくったり、それらを飾ったりする。
(2)材料・用具	いろいろな材料や用具などの扱い方を理解して使う。	いろいろな材料の性質や用具などの扱い方を理解し、工夫して使う。	いろいろな材料の性質や用具などの扱い方を理解し、適切に使う。
(3)鑑賞	自然や造形品の美しさなどに親しみをもつ。	自然や優れた造形品を鑑賞し、その美しさなどを味わう。	自然や優れた造形品を鑑賞し、美しさなどを味わうとともに、地域の伝統工芸品に関心をもつ。

保健体育

	中学部	高等部	
		1段階	2段階
(1)いろいろな運動	体づくり運動、簡単なスポーツ、ダンスなどの運動をする。	体づくり運動、いろいろなスポーツ、ダンスなどの運動をする。	体づくり運動、いろいろなスポーツ、ダンスなどの運動を通して体力や技能を高める。
(2)きまり	きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力して安全に運動をする。	きまりやいろいろなスポーツのルールなどを守り、友達と協力して安全に運動をする。	きまりやいろいろなスポーツのルールなどを守り、友達と協力し、進んで安全に運動をする。
(3)保健	自分の発育・発達に関心をもったり、健康・安全に関する初歩的な事柄を理解したりする。	心身の発育・発達に関心をもち、生活に必要な健康・安全に関する事柄を理解する。	心身の発育・発達に応じた適切な行動や生活に必要な健康・安全に関する事柄の理解を深める。

職業・家庭，職業

	中学部	高等部	
		1段階	2段階
(1)働くことの意義	働くことに関心をもち、作業や実習に参加し、働く喜びを味わう。	働くことの意義を理解し、作業や実習に取り組み、働く喜びを味わう。	働くことの意義について理解を深め、積極的に作業や実習に取り組み、職場に必要な態度を身に付ける。
(2)職業に関する(基礎的な)知識	職業に就くためには、基礎的な知識と技能が必要であることを理解する。	適切な進路選択のために、いろいろな職業や職業生活について知る。	職業生活に必要な実践的な知識を深める。
(3)道具・機械等の取扱いや安全・衛生	道具や機械、材料の扱い方などが分かり、安全や衛生に気を付けながら作業や実習をする。	道具や機械の操作に慣れるとともに、材料や製品の扱い方を身に付け、安全や衛生に気を付けながら作業や実習をする。	いろいろな道具や機械の仕組み、操作などを理解し、材料や製品の管理を適切に行い、安全や衛生に気を付けながら正確に効率よく作業や実習をする。
(4)役割	自分の役割を理解し、他の者と協力して作業や実習をする。	自分の分担に責任をもち、他の者と協力して作業や実習をする。	作業の工程全体を理解し、自分の分担に責任をもち、他の者と協力して作業や実習をする。

(5)産業現場等における実習	産業現場等における実習を通して、いろいろな職業や職業生活、進路に関心をもつ。	産業現場等における実習を通して、実際的な職業生活を経験する。	産業現場等における実習を通して、職業生活に必要な事柄を理解する。
(6)家庭の役割	家族がそれぞれの役割を分担していることを理解し、楽しい家庭づくりをするために協力する。	→高：家庭	
(7)家庭に関する基礎的な事項	家庭生活に必要な衣服とその着方、食事や調理、住まいや暮らし方などに関する基礎的な知識と技能を身に付ける。	→高：家庭	
(8)情報（機械・情報機器）	職業生活や家庭生活で使われるコンピュータ等の情報機器の初歩的な扱いに慣れる。	職場で使われる機械やコンピュータ等の情報機器などの簡単な操作をする。	職場で使われる機械やコンピュータ等の情報機器などの操作をする。
(9)余暇（健康管理・余暇）	家庭生活における余暇の過ごし方が分かる。	職業生活に必要な健康管理や余暇の有効な過ごし方が分かる。	職業生活に必要な健康管理や余暇の計画的な過ごし方についての理解を深める。

家庭

	中学部	高等部	
		1段階	2段階
(1)家庭の役割		家族がそれぞれの役割を果たしていることを理解し、楽しい家庭づくりのための自分の役割を果たす。	家庭の機能や家族の役割を理解し、楽しい家庭づくりのために積極的に役割を果たす。
(2)消費と余暇		家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方が分かる。	家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方について理解を深める。
(3)道具・器具等の取扱いや安全・衛生	家庭生活に必要な衣服とその着方、食事や調理、住まいや暮らし方などに関する基礎的な知識と技能を身に付ける。	家庭生活中で使用する道具や器具などの正しい使い方が分かり、安全や衛生に気を付けながら実習をする。	家庭生活中で使用する道具や器具を効率的に使用し、安全や衛生に気を付けながら実習をする。
(4)家庭生活に関する事項		被服、食物、住居などに関する実習を通して、実際的な知識と技能を習得する。	被服、食物、住居などに関する実習を通して、健康で安全な生活に必要な実際的な知識と技能を習得する。
(5)保育・家庭看護		保育や家庭看護などに関心をもつ。	保育や家庭看護などに関する基礎的な知識と技能を習得する。

外国語

	中学部	高等部	
		1段階	2段階
(1)英語とその表現への興味や関心	身近な生活の中で見聞きする英語に興味や関心をもつ。		
(2)英語での表現(1)会話	簡単な英語を使って表現する。	簡単な英語を使って表現したり、やりとりしたりする。	初歩的な英語を使って簡単な会話をする。
(2)読む・書く		簡単な語、句、文に興味や関心をもつ。	簡単な語、句、文を書いたり読んだりする。
(3)語や句の意味		日常生活の中で見聞きする語や句の意味を知る。	簡単な語、句、文の意味を知る。

情報

	中学部	高等部	
		1段階	2段階
(1)情報やコンピュータ等の情報機器の役割		日常生活の中で情報やコンピュータ等の情報機器が果たしている役割に関心をもつ。	生活の中で情報やコンピュータ等の情報機器が果たしている役割を知り、それらの活用に関心をもつ。
(2)機器の操作		コンピュータ等の情報機器に関心をもち、簡単な操作をする。	コンピュータ等の情報機器の扱い方が分かり、操作する。
(3)ソフトウェアの操作と活用		各種のソフトウェアに関心をもち、実習をする。	各種のソフトウェアの操作に慣れ、実習をする。
(4)通信		コンピュータ等の情報機器を利用した情報の収集、処理及び発信に関心をもつ。	コンピュータ等の情報機器を利用した情報の収集、処理及び発信の方法が分かり、実際に活用する。
(5)情報の取り扱い		情報の取り扱いに関するきまりやマナーがあることを知る。	情報の取り扱いに関するきまりやマナーを理解し、それらを守って実習する。